



ふるさとへの思いと絆をつなぐ広報誌

平成25年11月20日発行(毎月1回20日発行)

ふるさとたより

久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来

2013年

Nov

NO.30

11

Pick up

文化の秋、特集

学習発表会、文化祭、秋の運動会、公民館まつりなど
市内各所でにぎやかに開催されました!



今月の子どもたち 久之浜保育所 まつ組

(後列左から) 稲野邊美羽ちゃん、山下桃花ちゃん、千葉彩乃ちゃん
(前列左から) 柳井友紀くん、海野優心くん



久之浜・大久



四 倉



平



小名浜



勿 来

復興祭&まちづくりコンサート
小学校、保育園、幼稚園の催し

四倉各地で学習発表会、文化祭
被災児復興支援施設 地鎮祭

海士ちゃんのそば屋開店
豊間仮設店舗準備会

試験操業開始への思い
小名浜本町通り芸術祭

文化の秋特集(勿来二中・植田小)
四季折々「四時川観光ヤナ」

多くの人出で賑わった
3年目の手作り復興祭

10月12日、「久之浜・大久復興祭」が久之浜一小校庭で行われました。3回目となる今年の復興祭は規模は小さいながらも、住民と地元団体の発案で準備が進められた手作りの復興祭。地元久之浜の海神舞のよさこい演舞、黒潮流みつり太鼓の演奏で幕を開けました。今回のメインは鍋大会。地元6団体のほか、交流のある石川町からの3団体も含め9団体の特色ある鍋料理が並びました。用意された900食が1時間足らずで無くなるほどの大盛況。来場者は家族と、友人と、また久しぶりに顔を合わせたなじみの人と共に語らい、鍋の味を楽しんでいました。



晴天に恵まれた復興祭。みなさん額に汗しながらお目当ての鍋料理を堪能していました



防災緑地ワークショップでの協議の様子やイメージ図も掲示され、真剣に見る人の姿も

多くの人出で賑わった
3年目の手作り復興祭

10月12日、「久之浜・大久復興祭」が久之浜一小校庭で行われました。3回目となる今年の復興祭は規模は小さいながらも、住民と地元団体の発案で準備が進められた手作りの復興祭。地元久之浜の海神舞のよさこい演舞、黒潮流みつり太鼓の演奏で幕を開けました。今回のメインは鍋大会。地元6団体のほか、交流のある石川町からの3団体も含め9団体の特色ある鍋料理が並びました。用意された900食が1時間足らずで無くなるほどの大盛況。来場者は家族と、友人と、また久しぶりに顔を合わせたなじみの人と共に語らい、鍋の味を楽しんでいました。



久之浜・大久地区復興祭の開催

久之浜を離れた方が実行委員会が手配したバスで来場し、懐かしの味に舌鼓



どの鍋も長蛇の列。審査の結果、漁協婦人部の「さんまのつみれ汁」が鍋大賞に選ばれました



地域づくり協議会まちづくりコンサート開催

10月12日、久之浜・大久地域づくり協議会主催のまちづくりコンサートが開かれました。出演は二代目松原操さん。題して「父の故郷で懐かしき昭和を歌う」。松原さんは、大久町出身の昭和の名歌手霧島昇さんとミス・コロンビアの芸名で活躍した松原操さんの三女です。ご両親の没後25年となる2009年に松原操の名を継ぎました。会場の久之浜一小体育館には、午前中開かれた復興祭を楽しんだ大勢がつめかけ、用意されたパイプ椅子がほぼ満席。急遽新たに椅子が運び込まれるほどの大盛況。立ち見も含め、およそ350名の観客が集まりました。



久之浜一小の校歌が完成した時、披露したのが故霧島昇さん。「父の魂を懐かしい故郷に連れてきてこられて感無量」と松原さん



何度もステージから客席に下りて、お客さんと一緒に懐かしい昭和の歌を歌っていました

♪幼馴染のあの友、この友
ああ誰か故郷を想わざる♪
二代目松原操りサイタル

10月12日、久之浜・大久地域づくり協議会主催のまちづくりコンサートが開かれました。出演は二代目松原操さん。題して「父の故郷で懐かしき昭和を歌う」。松原さんは、大久町出身の昭和の名歌手霧島昇さんとミス・コロンビアの芸名で活躍した松原操さんの三女です。ご両親の没後25年となる2009年に松原操の名を継ぎました。会場の久之浜一小体育館には、午前中開かれた復興祭を楽しんだ大勢がつめかけ、用意されたパイプ椅子がほぼ満席。急遽新たに椅子が運び込まれるほどの大盛況。立ち見も含め、およそ350名の観客が集まりました。

リサイタルは、両親のヒット曲や昭和の名曲を振り返りながら進みました。歌詞が印刷されたプログラムを手に、松原さんの歌に合わせて口ずさむ人、涙する人……。あつという間の1時間半でした。

「父の故郷で歌いたいといふ長年の思いがようやく叶いました。かつて父が歌つた父の母校の同じステージで、久之浜の方に歌を披露できただことが一番の喜びです」。終演後、会場を後にする観客一人ひとりを見送った後、松原さんが話してくれました。

田之網クラブ(斎藤光司会長)は、昭和49年ソフトボール愛好会「田之網運動愛好者クラブ」として発足し、今年創立40周年を迎えた。会員の体力向上や睦を図り、自治会と一体となつて田之網地区の発展のため活動を続けてきました。10月13日、歴代会長やOBらも出席し、創立40周年記念式典が開かれました。16年前の敬老会の様子を記録したビデオが上映されると、会場は懐かしさと笑いに包まれ、楽しい宴席が進みました。



三嶋神社の例祭、敬老会、会員旅行など様々な行事を行ってきた田之網クラブ。50周年、100周年を目指します



懐かしのVTRに会場は大盛り上がり。場面が変わるたびに映し出される懐かしい顔、顔、顔

**故郷の絆をつなぎ40年
田之網クラブ記念式典**

伝統行事が絆をつなぐ 金ヶ沢見渡神社の例祭

津波に襲われた金ヶ沢戸ノ入地区に仮の御社と鳥居が建つ見渡神社。10月14日、例祭が執り行われました。「集団移転をする世帯もあり、この地に誰も住まなくなるため神社の維持管理も大変ですが、祭りなどの伝統行事が故郷を考えさせ、絆を深めてくれています」と遠藤充区長。樹木が寄贈され、見渡神社を中心に鎮魂の森を整備する計画も持ち上がってきています。



市漁業協同組合と小名浜機船底曳網漁業協同組合による、原発事故後初となる試験操業が10月18日行われました。久之浜漁港からは7隻の底引き網船が出港。いわきから広野40km以上の沖合で網を引き、漁獲場所や時期を考慮し選定されたメヒカリやミズダコなど7種を水揚げしました。

小名浜魚市場に陸送された魚は、放射性物質検査で安全性を確認。市中央卸売市場での競り掛けられました。震災から2年7ヶ月、久之浜ブランドの漁業復興へ向けて大きな一步が踏み出されました。

漁業復興へ向け第一歩 試験操業の開始

復興へ向けた動き

久之浜
大久

復興対策協議会 グランドデザイン策定部会

久之浜・大久地区復興対策協議会に設置された復興グランドデザイン策定部会。10月30日の第2回会合で、部会長に遠藤論さん、副部会長に高木重行さん、村岡寛さん両名が選出されました。第2第4水曜日に会議を開き、年度内にグランドデザイン(全体構想)を取りまとめます。



箸を使い制限時間内に碁石を移動させるゲーム。校舎のあちらこちらから楽しい声が聞こえてきました



「休みの日特別な場所へ行かなくとも、親子で楽しく過ごす時間を」との松本校長発案の親子ふれあい参観デー

久之浜一小

久之浜地区放射線量測定記録 (各区代表ポイント)

- 測定日:平成25年10月24日(天候:曇り)
- 測定者:久之浜・大久地区復興対策協議会
- 測定器:日立アロカメティカル製 TCS-172 (シンチレーションサーベイメーター)

測定ポイント	地上 1cm	地上 100cm
田之網(田之網集会所)	0.11	0.11
南町(旧道沿い中央部)	0.09	0.08
中町(旧道高木屋旅館付近)	0.11	0.10
北町(久之浜駅前)	0.12	0.12
東町(旧久之浜漁協前)	0.08	0.08
西町1区(西町公園付近)	0.13	0.13
西町2区(久之浜一小正門付近)	0.16	0.18
金ヶ沢(鹿野付近)	0.14	0.15
末続(末続駅前)	0.18	0.17
大久(大久公民館付近)	0.12	0.13
筒木原(久之浜二小西門付近)	0.12	0.11
小久(町田橋付近)	0.12	0.11
小山田(小山田集会所付近)	0.15	0.14

単位はすべて $\mu\text{sv}/\text{h}$

*¹(株)東北イノベーターのHP
<http://www.thkinnovator.co.jp/> で
より詳しい放射線情報をご覧いただけます。

秋空の下、元気に運動会

久之浜第一幼稚園

10月13日、平第一幼稚園で開かれた運動会。標語は「パワー全開!がんばるぞ!~皆の笑顔が日本一」。元気いっぱいに園庭を駆け抜け、楽しく踊る園児の姿が見られました。



久之浜保育所

空に雲一つない快晴の9月28日、久之浜保育所の運動会が開かれました。小学生となった卒園生が参加した種目も含め全17競技が行なわれ、小さな笑顔が弾けていました。



大浦小 学習発表会 10月19日

「キラキラ輝け 大浦つ子 会場に笑顔と感動を!!」のスローガンのもと、全校児童が力を合わせて頑張りました。



◀劇「ほんとうの宝物は」を演じる3年生。お年寄り、汗を流して働く人、子どもたちが宝物に認定されました

▼「めざせ東京オリンピック」の5年生はマット運動、なわとび、一輪車などのほか、組体操で息の合った演技を披露



◀劇「昔、昔のことじやつた」を演じる6年生。コミカルなストーリーに会場は笑いと拍手が絶えませんでした

四倉小 学習成果発表会 10月19日

体育館が改装工事中のため、礼法室で開催。日頃の練習の成果を発揮して、保護者から大きな拍手が贈られました。



◀初めての学習発表会で言葉遊び「あめのえんそく」を元気いっぱいに演技した1年生



▲5年生は、9月の宿泊活動で会津の鶴ヶ城や藩校日新館を訪問した様子を劇やナレーションで紹介

◀創作劇「YOTSUKURA 2033」で、自分たちが想像した20年後の四倉町を舞台に、寸劇や歌を披露した6年生

文化の秋を彩る、四倉地区の学習発表会、文化祭、そして方部音楽祭を特集しました

四倉・久之浜、小川・川前方部

小学校連合音楽祭

10月4日

各校とも、いわきアリオスの大舞台に臆することなく自由曲を演奏し、会場に美しい音色が響きました。



▶四倉小の4年生は、雄大な「宇宙戦艦ヤマト」のテーマ曲を披露



◀テレビ番組「情熱大陸」のテーマ曲を堂々と演奏した大浦小の4年生

四倉中 白銀祭

10月26日

午前中は作文や英語の弁論の発表、合唱コンクールが行われ、午後は自主制作映画の上映や吹奏楽部の演奏などがありました。



◀初めての白銀祭で伸び伸びと合唱する1年生



▼自由曲で「君とみた海」を歌い、最優秀賞に輝いた3年3組



◀3年生の部員も参加し、総勢48名で「君の瞳に恋してる」「風の谷のナウシカのテーマ」などを披露した吹奏楽部

よつくら元気プロジェクトで 港区と交流深める

NPO法人よつくらぶは、「よつくら元気プロジェクト事業」で、地域の子どもたちを引率して、10月12日の「みなと区民まつり」(東京都港区)に参加しました。

同法人と港区は以前から交流を続けており、子どもたちが区民まつりに参加するのは、昨年に統いて2回目。

今回は四倉小、大浦小、大野一小、同二小の児童40名が参加。子どもたちは5班に分かれ、トマトやごぼうなどのいわきの物産品の販売を体験して

区民まつりを楽しんだほか、夜は四倉出身の祐天上人ゆかりの増上寺に宿泊しました。

翌13日は江東区に移動。最先端の科学に触れられる「日本科学未来館」や防災体験施設「そんなエリア東京」を見学しました。

事故によって子どもたちが受けた心の傷をケアし、健やかな成長を見守る



被災3県で震災孤児・遺児の交流と支援を目的とした施設は初めて(写真は完成予想図)

秋の遠足、楽しかったよ！

四倉第一幼稚園は10月18日、秋の遠足で21世紀の森公園のわんぱく広場を訪れました。ずつとこの日を楽しみにしていました。



米寿者93名を代表して、小針支所長から賀状を受け取る片寄雄市さん

震災による津波被害や原発事故によって子どもたちが受けた心の傷をケアし、健やかな成長を見守る同施設は、NPO法人よつくらぶが施工。NPO法人ふくしま震災孤児・遺児をみまもる会と共同で管理運営し

地鎮祭には関係者ら約30人が出席。神事を執り行い工事の無事を祈願しました。

10月10日、震災孤児・遺児の心のケア施設(仮称)被災児復興支援施設の新築工事地鎮祭が、道の駅よつくら港の朝凧広場で開かれました。

施設は米春のオーブンを予定しており、鉄骨造り平屋建て。延べ床面積は約330平方メートル、遊び場兼地域交流室をはじめ、相談室や研修室も備えています。

YOSAKO-Iで 四倉から元気を発信



斜面を滑り降りるローラーコースターに園児たちはおおはしゃぎ

第11回 大浦ふれあいウォーキング大会 開催のお知らせ

11月24日(日)

午前9時に大浦小学校をスタートして、円福寺やとまとランドなど約8.9km(所要時間2時間45分程度)をめぐり、大浦公民館にゴールした後は、豚汁のサービスとお楽しみ抽選会があります。

当日は小雨決行。雨天中止時は午前10時に大浦公民館に集合して、豚汁のサービスと抽選会を行います。

参加料は高校生以上300円、小中学生100円、幼児以下無料。おにぎりなどの昼食、お椀、箸、飲み物、雨具は持参して下さい。

詳しくは大浦公民館 ☎0246-32-2003まで



鮮やかな赤の衣装と力強い踊りで会場を盛り上げた美舞蝶組

また、総踊りでは、ステージを埋め尽くす踊り手たちの熱演に、観客からは大きな声援が送られました。

いつまでも仲良くお元気で 敬老会開催

平成25年度四倉地区敬老会は10月2日、四倉公民館2階で行われ、同地区の米寿者93名と金婚を迎えた夫婦15組を表彰しました。

式典には受賞者や来賓など約150名が出席。小針美弘四倉支所長が米寿代表の片寄桑原勝次さん、トシ子さん夫妻に賀状と記念品を手渡しました。

受賞者を代表して、桑原勝次さんが「今後も一層の自己研鑽に励み、地域社会のさらなる発展の力になりたい」と謝辞を述べました。

いた園児たちは、ひとりの欠席者もなく、48名全員が参加。秋晴れの空の下、園児たちは4つの班に分かれて、芝生の上を走り回ったり、ローラーコースターやアスレチックを楽しみ、広場には笑顔と歓声があふれました。

ふ
る
さ
と
の
星

陸で開店した

海士ちゃんの立ち食いそば

9月26日、沼ノ内の県道近くに立ち食いそば〈海良〉がオープンしました。店主は豊間下町に住んでいた荒川良洋さん(38歳)。豊間採鮑組合所属の潜り漁師です。

荒川さんは海を愛するサークルで、20年前に小名浜から豊間に両親と共に転居し、大型車の運転手をする傍ら、休みの日には波に乗る日々。

その後、職業も海に関わってみたいと、長年の夢だった海士をめざし、潜り漁師の先輩に

弟子入りを志願。しかし、すぐには受け入れてもららず、夢の実現までに7年の歳月を費やしました。

海士になつて3年、漁にも慣れ、周囲も驚くほど上達して、これからという時に東日本大震災に遭遇。家も流され、原発事故の影響で漁も休漁に。禁漁中にはお世話になつていた以前の職場の社長に頼み、運転手をしていましたが、やはり海の近くで商売がしたいと、一念発起。漁師やサークル

今日も厨房に立つ荒川さんの胸には、海の男の情熱が静かに燃え続けていました。

アーチ間の協力で店の開店に漕ぎ着けました。地元には無いもので仲間が気軽に立ち寄れるものをと考え、そば屋を選びました。「お客さんがたくさん来てくれてとても感謝しています。でもいつかまた、きれいな海に戻ったら豊間の海で海士として生活がしたい。そして海士の仕事やウニの貝焼き作りを継承していきたい」。



豊間地区で使われていた建物を仲間たちと一緒に改装した店舗。店名の〈海良〉は潜り船の名前〈海良丸〉から付けました



荒川良洋・香織夫妻と左から愛海(あみ)、優海(ゆみ)、良海(りょう)。お子さんの名前はみんな海が付きます



震災前まで潜っていた豊間の漁場



カレーうどん(430円)は、手作りのオリジナルカレーに、少し甘めのそばつゆを合わせた人気メニューです

平沼ノ内西原95-2 ■定休日／日曜・祝日 ■営業時間10:30~14:30 夜部(木・金・土のみ)



映画学校の上映会には豊間小の児童や保護者、地元の方などがたくさん来場しました

地域の魅力溢れる豊間公民館まつり

10月27日、豊間公民館まつりが開催されました。沼ノ内子ども獅子舞や浜菊会・子ども浜菊会による「安波さまの唄」など地域の伝統芸能が披露され、地元婦人会によるバザーやウニご飯などの販売もありました。

ほかにも、公民館主催のパッチワーク教室の作品の展示や、絵手紙教室のワークショップなど参加型のイベントを開催。

また、先月号で紹介した「映画学校」で豊間小が制作した2作品に加え、昨年制作したCMなど5作品も上映。今年の作品のメイキング映像のなかで、アーティスト花音が「映画学校の歌」を披露しており、会場を沸かせていました。

豊間小・中学校に図書カードを送る

平口一タリークラブと群馬県太田市の太田平口一タリークラブ（以下RCと略）は、10月7日に豊間小（107名）、同11日に豊間中（81名）、のそれぞれのPTAに全校生分の図書カードを寄贈しました。

太田RCから、いわきの子どもたちへの支援の申し出を受けた平RCも協力し、両者が20万円ずつを出し合い、一人2千円分の図書カードを送ることを決めました。

贈呈式では、太田RCの田部井敏弘会長からは「私

たちができることはわずかですが、本で心のケアができる「ばうれしい」とあいさつがありました。



伝統を残そう薄磯地区「権現様祭り」



有識者の指導で御神体を作ります



お絆が唱えられると境内は厳かな空気で包まれました

10月12日薄磯の権現様祭りが行されました。この祭りは古くから受け継がれ、地域の伝統行事になっています。



今年もたくさんのサンタが豊間に集まります

10月12日薄磯の権現様祭りが復興し新しい人が来ても分かるようにと地域の住民や前役員の協力で、権現様祭りの記録を作しました。

今年は薄磯地区の役員が代わったため、祭りの進行すべてを把握していませんでした。今後町長は話しました。



「後生に末永く受け継がれていくことを期待します」と鳥居喜一郎薄磯

が復興し新しい人が来ても分かるようにと地域の住民や前役員の協力で、権現様祭りの記録を作しました。

「サンタクロース大作戦！」を開催。ポケモン、バルーンアートなど、屋台や産直販売も出店。ピカチュウも登場し、ショーやエコバッグ作りなどに参加します。



里山に咲いた浜菊の花

地元の里山を防災緑地に移植

10月24日、豊間、薄磯地区で第1回目の里山散策が行われました。UR都市機構主催のこの試みは、今後、同地区の防災緑地に植栽される樹木を現在の里山から受け継ぎ、新しい緑地に根付かせようと、ドングリや幼苗を採集し育てていく取り組みです。

今回講師を務めた樹木医の木田都城子先生は、参加者に木の名前やドングリの説明、



里山を歩きながら植性を説明する木田先生

里山の成り立ちなどを話しながら、防災緑地に適した樹木を参加者とともに選んでいました。

復興へ向けた動き

サンタが今年もやって来る

●受付10時～、開始11時
（参加無料）

●受付10時～、開始11時
（参加無料）

震災の年には、戸惑いながらも、地域の復興の後押しにと復興祭と銘打ち開催。今年はあいにくの雨でしたが、院内の施設各イベントを行いました。



「あまちゃん」のテーマ曲などを演奏し、お礼の花を受け取る小名浜高校吹奏楽部の代表

豊間区仮設店舗準備会と農業再生セミナー

10月14日、第3回仮設店舗準備会が豊間生活再建サポートセンターで行われました。災害公営住宅入居に向けて豊間区が準備している仮設店舗において、実際に営業を行う店舗の選考や運営方針などが話し合われました。

そのなかで「新しい東北」と題し農業の新しいあり方として野菜の水耕栽培事業についても話し合われました。

これを受けて、10月26日に「農業再生セミナー」をふるさと豊間復興協議会主催で開催。場所は福島高専視聴覚室で参加者は豊間3地区の住民など約50名。大阪府立大学の村瀬治古教授が「人口光型植物工場による農業再生」をテーマに講演し、その後、質疑応答が行われました。「どのような野菜が作れるのか」、「野菜の安全性や施設の運営や管理は」、「販路の開拓はどのようにするか」など活発な質問が出て、住民の関心の高さが伝わってきました。



農業再生セミナーを熱心に聴く参加者のみなさん



水揚げに湧く小名浜魚市場



第二十三常正丸の漁労長・矢吹正美さんは「潮風を全身に浴び漁師に戻れたと実感した」とうれしそう



船主として第二十三常正丸の出港を見送る市漁業協同組合 矢吹正一組合長

待ちに待った出港

台風などの影響により延期されていた、いわき沖の試験操業が10月18日開始されました。

（76歳）。震災以降、待ちに待つた2年7ヵ月ぶりの漁船の出港に率直に嬉しい。やつと魚を獲つて生活をする漁師本来の姿に戻れた。ほっとしている」と笑顔で自船を見送りました。

試験操業に漕ぎ着けるまでの期間、多忙な組合長の業務の傍ら、時間のある日は朝、昼、晩

業協同組合長・矢吹正一さん



翌日の早朝、卸売市場で競りの様子を見て今後の漁獲について懇談

小名浜魚市場は漁業や仲買関係者や報道陣で賑わい、活気に満ちた魚市場の様子と水揚げされた魚を見ながら、矢吹組合長は「試験操業により漁師の生きがい、やる気を見せられる。いわきの海だけ遅れをとてはならない。徹底した検査により安全性を図り、消費者に可愛がってもらえるよう漁師も努力が必要だ。」常磐物“ブランド”を守つて、若い人の漁業の将来に明かりを灯したい」と話しました。



生きたままの毛ガニが箱詰めされ出荷されました

水産物の放射性物質測定データは、市・見せる課のホームページ「見せます!いわき情報局」で随時公表しています。

<http://misemasu-iwaki.jp/>



真剣に説明を聞く参加者のみなさん

渡辺さんから、わかりやすく説明を受けました

海産物の検査体制と安全性を知るバスツアーを開催

10月からのいわき沖での試験操業開始を前に、9月28日、市漁業協同組合主催の「第1回いわきの漁業の現状を学ぶバスツアーハー」が開催されました。はじめに小名浜魚市場にあるモニタリング検査室を見学。報道陣へのインタビューに終始笑顔で丁寧に対応していた矢吹組合長

その後、福島県水産会館にバスで移動し、水産総合研究センターの渡辺朝生さんから「水産物と放射性物質について」の解説がありました。「海産魚は塩の浸透圧を調整する機能により体内の不要物を排出することが容易なことから、放射性物質を蓄積していないため、いわき沖の魚も種類によつては1年以上も放射性物質を検出していいものもある」と説明しました。

参加者は各所で真剣に説明を聞き、漁業と魚の現状についての知識を深め、安全性を確認していました。

いわき市漁業協同組合 矢吹正一組合長が迎える 試験操業初日

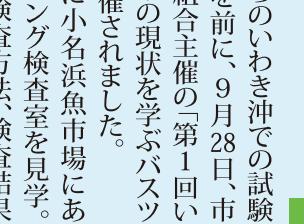
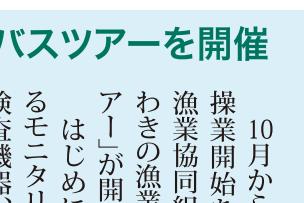
組合長としての決意も新たに

午前11時、第二十三常正丸など早朝に出港した漁船が沖での漁を終え、小名浜港に市の魚メヒカリ・スルメイカ・毛ガニ・ニクモチなどを水揚げしました。

と毎日欠かさず船を見に江名浜港へ来るのが日課。昼には漁港周辺を1時間ほど散歩し、体力の維持にも努めています。「何よりも船と海を見ている心が落ち着くんです」と矢吹さん。



報道陣へのインタビューに終始笑顔で丁寧に対応していた矢吹組合長





小名浜本町通り芸術祭 2013開催!



10月13、14日の両日、小名浜祭りの一環として「小名浜本町通り芸術祭2013」が開催されました。

本町通りやタウンモールリスボを中心に街なか全体が会場となり、小名浜で活動する「アート集団UDOK」メンバーが制作した作品をはじめ大森克己さんの写真展、ワークショップで制作された市民による作品などが展示され、訪れた人は作品を鑑賞することはもちろん、街の魅力をアートを通じて再発見しました。



津波で被災したカレンダーを掲示し、3.11を忘れないようにしているという小松さん

10月20日、第22回江名公民館まつりが開催されました。同仮設公民館で活動するサークルが制作した作品などが展示されました。あいにくの雨模様でしたが、たくさんの方々が来場者がありました。

今まで街の一角で行っていた芸術活動を街の中に広げてみようと思いました。そう考えると、なつたきっかけの一つは震災でした。故郷・小名浜の街の歴史、地域の財産、食文化や想いを、街そのものを素材として活かし、お金をかけず今までアートを作りました。街のなかにあるアートを通じて、市民に小名浜の良さを再認識してもらえるきっかけを作りたいという意

9月26日、江名中学校1年生72名を対象に、地域の防災を学ぶ「ふるさとの未来を考え」と題した総合学習が行われました。江名公民館まつりが開催されました。同仮設公民館で活動するサークルが制作した作品などが展示されました。あいにくの雨模様でしたが、たくさんの方々が来場者がありました。

今回は街の活性化事業に若者たちの視点を取り入れた試み。単純に祭りを楽しむという意味もありますが、それだけでなく将来の地域を支える人間と、小名浜に人が戻り、地元に住む楽しさや魅力がある面白い小名浜にしていければと思っています。

小松理虔さん
芸術祭への思い

10月20日、第22回江名公民館まつりが開催されました。同仮設公民館で活動するサークルが制作した作品などが展示されました。あいにくの雨模様でしたが、たくさんの方々が来場者がありました。

復興へ向けた動き

津波防災を学び、防災緑地とのつきあい方を考える

9月26日、江名中学校1年生72名を対象に、地域の防災を学ぶ「ふるさとの未来を考え」と題した総合学習が行われました。

これは防災緑地の整備計画のなかで地区の将来を担う子どもたちの意見も取り入れて欲しいという地区役員や学校などの声から実施されたものです。県いわき建設事務所の職員を講師に迎え、いわき沿岸の被害状況や復興事業計画、防災緑地の概要や植栽について説明を受けました。その後、ゲループワークを実施し、次世代に誇れる地域と防災緑地をつくる“というテーマで意見を出し合いました。



100歳の佐藤福起(ふき)さんがお孫さんのために作ったストール付セーターも展示されました

子育て支援拠点を開所

9月9日、小名浜大原に子育て支援拠点「アステール」がオープンしました。これは前澤由美さんが理事長を務める「NPO法人いわき緊急サポートセンター」が開所。24時間体制で子育て支援活動を行う同センターは、小名浜に同様の施設がないことや子育て家庭が多いことから、相談室と託児スペースを整備しました。

10月20日、第22回江名公民館まつりが開催されました。同仮設公民館で活動するサークルが制作した作品などが展示されました。あいにくの雨模様でしたが、たくさんの方々が来場者がありました。



震災により大きな被害を受け、倒壊の恐れがあった三崎公園内の番所灯台が復旧工事を終え、9月27日から一般見学会ができるようになりました。石造り風の外観に変わり、これからも小名浜沖を航行する船舶の安全を見守り続けます。

復旧の風景〈番所灯台〉

通信インフラの整備や災害時の備蓄倉庫の設置など、大人顔負けの提案がありました。参考した生徒が、地区や防災緑地の将来像について真剣に考える機会となりました。

お知らせ

●11月23日(土) 10:00~15:00 小名浜みなど食遊祭 小名浜アクアマリンパーク・浜通り地区的名物料理の販売、先着500名さんまでのつみれ汁無料配布、ステージイベント、東京浅草の人力車乗車体験などが行われます。

●11月30日(土) 10:30~11:00 クリスマスツリー点灯式 いわき・ら・ら・ミュウ中央広場・地元の幼稚園児によるジャンボクリスマスツリーへの点灯式を行います。

【アクアマリンふくしま】

●11月30日(土)~12月25日(水) アクアマリンクリスマス 本館1階エントランス・クリスマスツリーの展示。12月21日(土)~24日(火)は開館時間を19時まで延長し、クリスマスにちなんだ様々なイベントを開催。

●11月30日(土)~1月13日(月・祝) 2014干支展・2014年の干支「午」にちなんだ展示を行います。

●12月22日(日) 10:00~15:00 フィギュアづくりに挑戦!シーラカンスを作ってみよう!・アクアマリンふくしまオリジナルのシーラカンスフィギュアを作ります。対象:小学4年生~、定員30名、参加費1人2,500円、応募締切12月8日(日)

お問い合わせ ☎0246-73-2525



木田さんへ、お礼の言葉を述べる山形さん(写真左)と、花束を贈る西村さん(写真右)



3曲目に披露されたドビュッシーの「雨の庭」では、生徒たちがそれぞれイメージした色を、色鉛筆で表現しました

勿来第二中学校

おでかけアリオス



“秋”を芸術で彩る…

学校行事

特集



植田小学校

3年ぶりの学習発表会



2年生は、学習発表会でお馴染みの「スイミー」の劇を披露。一生懸命に台詞を覚えた子どもたちはもちろん、手の込んだ小道具にも注目でした

大会での受賞曲以外にも、「バイレーツ・オブ・カリビアン」や「あまちゃん」のオープニングテーマなど、誰もが知る曲を披露。総勢47名での演奏は大迫力!

10月1日、勿来第二中学校で「おでかけアリオス」が行われました。

これは、市内の学校や被災地などにプロの演奏家が訪れ、子どもたちに「生」の芸術にふれてもらうことで、感性の豊かさや心の和らぎを向上させることを目的とした事業。勿来地区の中学校では初の試みとなります。

今回は、ピアニストの木田麻貴さんによるクラシック鑑賞会を開催。同校の3年生約50名が音楽室に集まり、木田さんからライブ形式でピアノの演奏が披露されました。終了後には、生徒を代表して山形有純さんから「プロのピアノを聴けてとても感動しました。ありがとうございました」とお礼の言葉が贈られ、同じく代表の西村和也さんは「どうございました」とお詫びしました。

震災で長期間使用できなかつた同校の体育館は、今年8月に建て替え作業が完了したばかり。23年度には校舎内にある多目的室を使ってミニ発表会が行われたそうですが、体育馆を使っての発表会は震災後初めてとなります。

3年生以下の子どもたちにとって、入学してから初めての学習発表会。9月中旬から一生懸命練習を重ね、いよいよ本番を迎えました。

そんな我が子の晴れ姿を「目見ようと、真新しい体育館には、カメラを片手に訪れた保護者のみなさんで賑わっていました。」を披露しました。

3年生以下のお子さんたちは「流れるような指使いが凄かった」、「音楽について、もっと知りたくなった」など、思い思いに感想を述べていました。

2年生は、学習発表会でお馴染みの「スイミー」の劇を披露。一生懸命に台詞を覚えた子どもたちもちろん、手の込んだ小道具にも注目でした

大会での受賞曲以外にも、「バイレーツ・オブ・カリビアン」や「あまちゃん」のオープニングテーマなど、誰もが知る曲を披露。総勢47名での演奏は大迫力!



真剣な眼差しで説明を聞く参加者のみなさん。住民からは様々な質問が上がりましたが、図面を使って丁寧に説明されました。



蛭田橋から見た、蛭田川の河口付近

震災復興のため、河川堤防のかさ上げ等を実施する蛭田川の災害復旧工事に関する説明会が、10月3日に勿来支所で行われました。

参加したのは、地権者となる住民およそ25名。工事をするにあたって個人の用地取得が必要になるため、具体的に河川堤防の幅や高さがどのように変わるかなど、工事の詳しい概要が説明されました。

工事の対象となるのは、同河川の河口から国道6号までの約1,100mと、国道6号から上流へ約150mのところまでの、合わせて約1,250

蛭田川災害復旧工事に関する説明会

復興へ向けた動き

今年も大盛況!

磐農ストア



商品の確認やレジ打ち、袋詰めまで、生徒たちが丁寧に行います



会場となった商店会事務所前には、新鮮な野菜や卵を貰い求めるお客さんで長蛇の列が

10月3日、本年度初の「磐農ストア」が、うえだ商店会の事務所を使って開かれました。磐城農業高校の生徒たちが製造したジャムやパンなどの食品のほか、卵やシクラメンなどの農産物も販売され地元のみなさんに大好評。食品流通科の2年生11名が販売員となり、お客さん一人ひとりに笑顔で接客していました。

勿来の四季折々

今回のテーマは
勿来のおいしい秋の味覚



◆川のせせらぎを聴きながらほおばる塩焼き

9月1日から鮎のヤナ漁が始まり、川部町の「四時川観光ヤナ」は、鮎の塩焼きがおいしいと有名なお店です。震災以降、風評被害などによりお客様の数は震災前のおよそ3分の1ほどに減ってしまったそうです。「震災から2年が過ぎた現在は、お客様の数も徐々に戻ってきました」と、オーナーの緑川仁一さん。創業して15年になるお店を、これからも笑顔で営業していきます。



四時川観光ヤナ
いわき市川部町禾の宮 149
☎0246-65-2838

■営業時間 10:00 ~ 18:00
■定休日 毎週水曜日



新しい園舎が完成!

錦町 大倉保育園

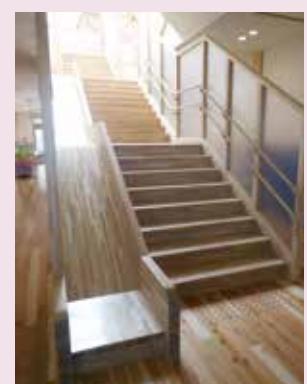


昨年4月、震災で大きく傾いてしまった園舎の取り壊しが行われた大倉保育園。震災以降、2年7ヶ月にわたって仮の園舎で生活を送っていた子どもたちですが、10月10日に新園舎が完成し、15日から利用を開始しました。

赤津郁江園長は「仮園舎では外で遊ぶことができず不便でしたが、これからはより良い環境のもと、子どもたちがいきいきと生活できる保育を心がけたいです」と笑顔で話しています。



▲以前は鉄筋コンクリート製だった園舎ですが、木のぬくもりを肌で感じられるよう木造にしたそう



▶2階へと続く階段の脇にはすべり台を設置するなど、園児を楽しませる工夫が

21世紀の森公園 災害時拠点施設を整備

21世紀の森公園は市の中心部に位置し、一般国道6号や49号などに近接しているため交通の利便性が高く、多くの市民に利用されています。今年も、ふくしま復興祭やプロ野球オールスター GAMEが開催されました。また、市地域防災計画の広域避難場所にも位置付けられており、東日本大震災時には自衛隊の宿営地となるなど、市の防災活動拠点として重要な役割を果たしました。

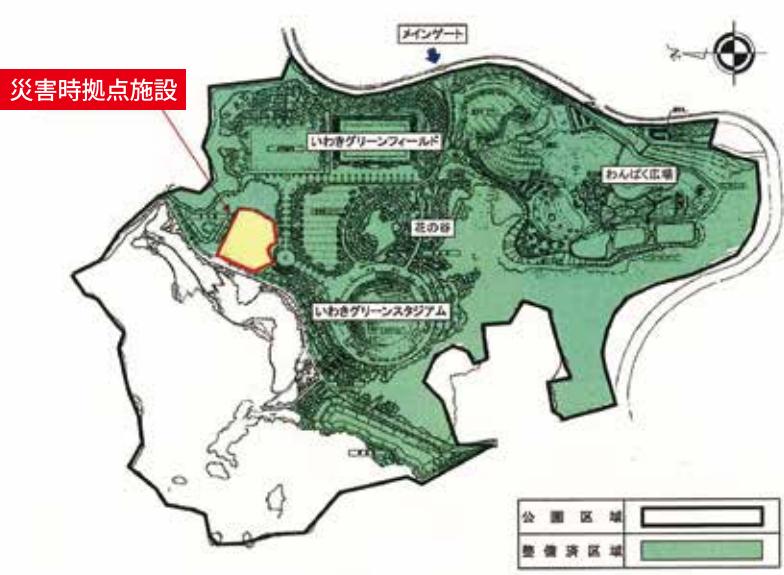
こうしたことから、同公園の広域的な防災拠点としての機能向上

を図るため、災害時に市全域にわたる救援物資の集積・分配機能を担う「災害時拠点施設」を新たに整備します。なお、平常時には野球場やサッカー場などのサブグラウンドとしての利用や、ゲートボールや子どもの遊び場などにも利用できる多目的屋内運動場として、常時有効活用できるよう考えられています。

今年度中に測量設計を行い、来年度から基礎工事など施設整備が開始される予定となっています。

21世紀の森公園整備事業（災害時拠点施設整備）概要図

21世紀の森公園（総合公園） A=89.2ha



■施設規模(予定)

構 造	鉄骨・平屋造
延べ床面積	約50m×60m(3000m ²)
床 面	人工芝張り

■お問い合わせ

市公園緑地課 事業係 ☎0246-22-7518



今後、災害時にはいわきの拠点になるであろう21世紀の森公園の現在の様子

—いわきの“良さ”を、市民へ伝える— 「景観いわき」創刊

市民にいわきの美しさを知つてもらい景観保全につなげようと、10月1日、市都市計画課が「景観いわき 創刊号」を発行しました。

市内のビュースポットや、文化財がある観光地などを紹介する景観いわき。年3回の発行を予定しており、市民が撮影した写真なども掲載していく予定です。

本庁舎1階の市民ロビーや各支所、公民館などに備え付けられており、また、市のホームページでも閲覧できます。



今年度は、今回の創刊号以外に、12月と3月の発行を予定しています

ふるさとだよりに情報やご感想をお寄せください！

- メールの方／furusato@asally.co.jp
- 携帯電話からのメールはQRコードを読み取ってください。→
- FAXの方／☎0246-26-5157
- おたよりの方／左記編集室まで



いわきあいあいで情報発信中!!
いわきあいあい 検索

Click

相談コーナー

●各支所での弁護士による無料法律相談会（12月の日程）

勿来支所／12日(木)、四倉支所／17日(火)、小名浜支所／26日(木)

◆主に、東日本大震災からの生活再建にかかる相談が対象。

相談時間／14:00～17:00の間で30分程度(要予約)

〈予約・お問い合わせ〉市広報広聴課 ☎0246-22-7438

表紙の人

久之浜保育所 まつ組

(後列左から) 稲野邊美羽ちゃん、山下桃花ちゃん、千葉彩乃ちゃん(前列左から) 柳井友紀くん、海野優心くん

いつも元気で戦隊ものが大好きな友紀くんと優心くん、美羽ちゃんは皆のお世話役、桃花ちゃんは折り紙・お絵描き大好き、彩乃ちゃんはママのお手伝いが好き。久之浜保育所年長まつ組の5人です。

